



日本小児科学会は5-17才の全ての小児に

新型コロナワクチン接種を推奨します。

- 「日本小児学会は5~17才の健康な小児の
新型コロナワクチン接種を推奨します。」
- 「2回目接種から5ヶ月以上経過した12~17才の健康な
小児に対して、早期の追加接種(3回目)を推奨します。」

<感染状況について>

- 小児患者の急増に伴い、以前は少数であった重症例と死亡例が増加しています。
- 小児新型コロナ感染者の95%は軽症ですが、オミクロン株流行後、クレープ、熱性けいれん、咽頭痛、嘔吐が 증가し、脳症、心筋炎などの重症例の報告もされています。

<コロナワクチンについて>

- コロナワクチンの有効性は当初90%以上と報告されていましたが、オミクロン株流行後発症予防効果は51%、入院予防効果は68%と報告されています。
- 5~11才のコロナワクチン副反応は注射した部位の腫れ・痛みは57.5%、発熱などの全身症状は40.9%とされています。副反応の中で軽症は97.6%でした。ワクチン接種後の心筋炎は100万回接種あたり、男児2.7件、女児0.81件でした。副反応の頻度は米国でも日本でも同程度です。

